

## 稲富洋明先生旭日小綬章受章祝賀会

常任理事 安里 哲好



稲富洋明先生と民子夫人

前沖縄県医師会長の稲富洋明先生の栄えある旭日小綬章受章を心よりお祝い申し上げます。稲富先生の受章を称えた祝賀会が、平成21年6月3日ザ・ナハテラスにて行われ、会場溢れんばかりの多くの方々が出席され、受章を祝い喜びを共にされました。



始めに主催者を代表して宮城会長より、稲富先生が南部地区医師会役員24年、県医師会役員26年の長きに亘り医師会の重鎮として強力なリーダーシップの

もと、会の発展並びに県民の医療・保健・福祉の向上に尽力されたことに対する労いの言葉が述べられると共に、混迷する医療界を立て直

し、安心・安全な医療を提供するため、引き続きのご指導、ご助言を賜りたい旨の挨拶がありました。

続いて、名嘉南部地区医師会長より稲富先生のご功績が紹介された後、来賓を代表して奥村啓子県福祉保健部長（代：宮里達也保健衛生統括監）より、先生の長年の医師会活動並びに30有余年に亘る地域保健医療活動に対する労いの言葉が述べられました。

その後、記念品・花束贈呈が行われ、稲富洋明先生よりお礼のご挨拶が述べられ、新垣善一議長の音頭による乾杯の後、懇親へ移りました。

なお、稲富先生の業績内容と謝辞を以下のとおり掲載します。

稲富洋明先生功績紹介

名嘉南部地区医師会長



この度の稲富洋明先生旭日小綬章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和55年に沖縄県医師会理事就任を皮切りに理事8年、副会長14年、会長4年、合計26年間にわたり、沖縄県医師会の牽引者として会務運営、事業推進に尽力されました。

平成14年の会長就任に際し、「信頼される医師会」づくりを提唱し、様々な形で実践してこられました。

先ず、県民から信頼を得る為には、対外広報活動が必要不可欠であるとし、「県民公開講座」の開催、沖縄県老人クラブ連合会や婦人会連合会等の各種団体の代表者で構成する「医療に関する県民との懇談会」の実施、「マスコミとの懇談会」の定期開催等に努め、県民への適切な情報発信と県民との直接対話を強力に推進されました。

一方、会内では、「医の倫理向上」「自浄作用の活性化」「医療安全対策」等に力点を置き、県内外からそれぞれの専門家を講師に招聘して講演会を開催すると共に、中央から収集した情報を会員に提供し、会員自らが「安心で安全な医療の確保」に取り組むよう促進し、信頼の醸成に努められました。

また、本県は、従来から日本の南玄関として東南アジアとの交流の拠点を目指し種々活動を行っておりますが、稲富先生は、医師会も、学術団体としてその一翼を担い国際交流の発展に寄与すべきとの信念の元、隣国で歴史的にも結び付きの深い台湾の台中市医師公会に姉妹会締結の申し出を行い、台中市医師公会のご理解を得て姉妹会締結を実現させております。特に平成15年にアジアを中心に猛威をふるったSARS発生時にはマスクを届けると共に、担当

理事を現地に派遣し情報収集に当たらせる等、本県のSARS対策に大きく貢献しております。

このように、沖縄県医師会長という極めて多忙の中で、沖縄県医療審議会委員、健康おきなわ2010推進会議委員等、県をはじめ関係諸団体の委員会委員等を歴任され、その数は四十数種に及び、医師会のオピニオンリーダーとして各方面で活躍されました。特に、沖縄県医療審議会においては会長として、県下の医療提供体制の確保に尽力されております。

また、九州医師会連合会では、平成17年度に連合会長に就任され、九州医師会総会・医学会、九州ブロック学校保健・学校医大会をはじめとする諸行事を成功裏におさめると共に、日本医師会においては理事2年、代議員10年、病院委員会2年を歴任され、日本医師会の事業推進にも大きく貢献されております。

さらに、本会の長年の懸案事項でありました会館建設について、県有地との等価交換作業を速やかに進捗させるよう直接沖縄県知事に働きかける等、先頭に立って会館建設に向けて尽力されており、おかげを持ちまして、昨年秋に無事竣工しております。

また、南部地区医師会においては、昭和51年4月に現在の理事に相当する幹事就任を皮切りに幹事8年、理事6年、副会長を10年務められ、南部地域の医療・保健・福祉の向上、発展に多大な貢献を果たされました。特に、昭和59年4月、副会長に就任すると同時に会長を強力に補佐し、同会法人化に向け会員相互の団結を図り、昭和59年9月の社団法人の認可取得実現に大きく貢献されました。また、会員の念願であった南部地区医師会館並びに附帯施設の老人保健施設建設への取組みに精力を注がれ、特に、会館建設委員長として附帯施設の選定から、視察団を結成し熊本県の水俣市葦北郡医師会立の老人保健施設はじめ県内5ヶ所を視察するなど、地域住民の保健・医療・福祉の向上を狙いとする医師会活動の拠点づくりに大きく貢献されました。

以上のような数々のご功績が認められ、この



度旭日小綬章を受章されました。現在は沖縄県医師会顧問として、医師会発展のためにご尽力いただいておりますが、稲富先生におかれましては、今後ますますご健勝でご活躍されることを祈念申しあげまして、簡単ではございますが業績紹介を終わります。

この度のご受章、誠にありがとうございます。

**稲富洋明先生 謝辞**



本日は公私共に大変お忙しい中を、このように大勢の皆様にお集まりいただきました事に心から感謝申し上げます。

この度はからずも春の叙勲受章者として旭日小綬章を拝受いたしました。身に余る光栄でございます。

先ほど来、ご祝辞を賜りました奥村啓子県福祉保健部長ご名代の宮里達也保健衛生統括監、宮城県医師会長には、身に余るお祝いのお言葉をいただき、ありがとうございました。

また、名嘉南部地区医師会長からは過分なご紹介を賜りまして、身のすくむ思いでございます。去る5月14日に厚労省において舛添大臣より直接勲記・勲章の伝達がされることになっていましたが、新型インフルエンザの問題が浮上したため、急遽場所がホテル・ニューオータニに変更になり、渡辺副大臣による伝達となりました。

その後、昼食の弁当を食べ厚労省のチャーターしたバスに分乗し皇居に向かったのですが、時間の調整のため皇居前広場で約1時間バスから降りて散策することになりました。

モーニングに勲章をつけたオジさんと着物にリボンをつけたオバさん達がうろうろしている姿を想像してみてください。

ある外人観光客から、その勲章はどこで売っているのかと聞かれるハプニングもありました。

再びバスに乗って、坂下門を通過して皇居に入りましたがそこで30分待って、ようやく黄色い絨毯が敷かれた木の香りがただよう階段を上ると、そこが豊明殿でした。広さ約280坪で天井の高さ6m、32個のシャンデリアが輝き、赤い絨毯が敷き詰められ、雲の模様が描かれた11面のつづら織のある豊明殿へ陛下がお出ましになり有難いお言葉を頂戴し、感慨無量でございます。

今回の受章は保健衛生功労ということであります。

主たる功績内容は医師会活動で南部地区医師会24年、県医師会26年の間務めさせて頂いた



表 彰

ということと、そして役職に付随して回る各種委員会に委員として参加させていただいたこと、昭和49年4月に県内で最初の医療法人として糸満晴明病院を開業以来36年間精神科医療に従事し、県内の精神医療保健の向上に寄与したこと等であります。

また、2期4年間でございますが県医師会長として、「開かれた医師会」から「信頼される医師会」を目指して、役職員が一丸となって取り組んだこと、国際交流の一環として台湾台中市医師公会と姉妹関係を結んで相互交流を促進したこと等、諸先輩方の温かいご指導ご鞭撻と役職員が一丸となったご協力、ならびに多くの会員の先生方のご支援のおかげだと心から感謝申し上げます。

5年前の今頃は、変形性膝関節症のため、杖なしでは歩けない状態でした。健康食品等には大変お世話になりました。

お世話にはなりましたが、全然効果がありま

せんでしたので結局手術により人工関節を埋め込みまして今では自由自在に動けるようになりました。ただ走ることも、正座する事、高い所からとび降りる事は禁止されています。

また、ストレスを発散させるための方策として前回の祝賀会の時には「心に太陽を抱き、唇には歌を」という気持ちで頑張りたいと申しましたが、ここである会員からクレームが付きまして、“一つ足りないよ。「腕にクラブを」を追加すべきだ”と云われましたが、私には腕に自信がありません。あくまで「心に太陽を、唇に歌を」という気持ちで頑張っていきたいと思っていますので、皆様のこれまで以上のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご参集の皆様の今後ますますのご健勝とご多幸を祈念し、感謝の言葉とさせていただきます。

本日はありがとうございました。



## 印象記



常任理事 安里 哲好

小生は稲富洋明先生と平成12年度から6年間沖縄県医師会活動をご一緒させていただきました。稲富先生は、平成14年度からは県医師会長を務めると共に、平成17年度には九州医師会連合会長、平成14年から平成16年までは日本医師会理事等の重責を担ってこられ、その間、台中市医師公会との交流の礎も築かれました。両膝関節痛そして足関節を痛めた中で、よくも九州を中心に、全国そして国外を行脚できたものと敬服しています。沖縄県医師会を守り発展させ、東アジアの医療における交流の端緒を育成して行くと言う強い気持ちが心の底にあっての事と思います。県外や台中市にご一緒した際に、タクシーに乗る時、君から先に乗りなさいと言われ、最初は戸惑いましたが、膝を強く使う横移動には難渋していたのでしょうか、その後は、失礼しますと述べ、先に乗車したのを思い出します。また、台中市医師公会との交流のための最初の下調べの際、ご一緒させていただいた折、台中市・台北市の文化や歴史的建物そして色々な食べ物（路上レストラン、お寺の参道の珍味・美味、円山ホテルの高級料理）等を味わい、そして、顔形はそれ程違わないのにまったく理解できない言葉を話す台湾の方々に戸惑を感じていましたが、稲富先生が通訳兼道案内をしていただきました。これ程地理的にも歴史的にも身近な台湾を、初めて訪れて、そして異国の地を見聞させてもらい、他の国の方々と交流する機会を経験させていただき、視野が広がりました。おかげ様で、その後チャイナ・エアラインを利用し10回ほど外国を旅しています。

県医師会長としての激務を終え、一医師として、安寧の日々をお過ごしになり、最近の稲富先生は肌つやも良く、膝の痛みもほとんど無いと聞いています。「心に太陽を、唇に歌を」と言う気持ちで頑張られるとのことですので、また時に触れて我々をご指導いただくと共に、今後益々、ご健勝であられんことを心から願いたします。

